

# 広徳寺通信

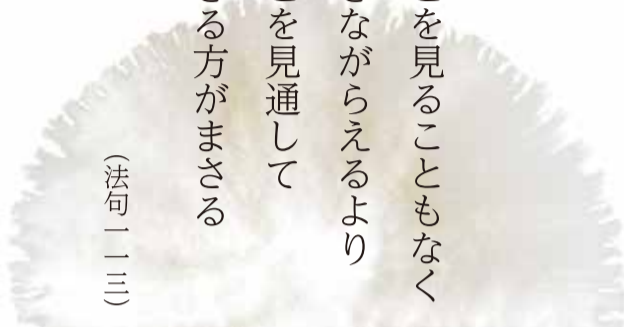
Letter from Koutokuji Temple



71号

生と滅とを見ることもなく  
百年生きながらえるより  
生と滅とを見通して  
一日生きる方がまさる

(法句一三三)



設い百歳の日月は声色の奴婢と馳走すとも、  
其中一日の行持を行取せば一生の百歳を行  
取るのみに非ず、百歳の佗生をも度取す  
べきなり  
(『修証義』行持報恩)

たとえ百年の月日を生きたとして、目に見えるものばかりを真実と誤り生きてきたとしても、この日この一日を仏として、多くの人やものと支え合って生きていることに気づき、命を生きることができたなら、それは一生分、否それ以上の価値があると道元禅師もまたお示しです。

お寺の冬の行事に参加してみませんか

**梅花流詠讃歌** 毎週土曜日 午後1時半-3時半

ふるくから日本人が親しんできた御詠歌。どこか懐かしい曲調を心をこめてお唱えします。初めての方には法具をお貸しいたします。

**婦人会** 毎週火曜日 午前9時半-11時半

女性限定。毎週お寺に集まっておしゃべりしながら裁縫したり、料理を習ったりしています。

**写経会** 毎月第2日曜日 午後3時-4時

丁寧に文字を書く。ただそれだけなのに不思議と心が落ち着きます。少人数ですでお気軽にお越しください。  
※1月はお休みです。

**坐禅会** 毎月第3日曜日 午後4時-5時

最近よく耳にする「めい想」とか「マインドフルネス」とかいうものの原点です。静寂の中で、自分に向き合います。  
※1月はお休みです。

**ピラティス～テラピラティス～**

簡単な動作でこわばった筋肉をほぐし、あなたらしい自然な姿勢に戻ります。

昼の会 am10:00-11:00 12/8 (金)

夜の会 pm6:30-7:30 12/23 (土)

参加費 1,000円 (回数券もあります)

※ 行事の詳細はホームページもご覧ください。

ラジオ番組「**曹洞宗の時間**」

曹洞宗僧侶の法話をラジオで聞くことができます!

毎週土曜日・朝6時15分から6時19分

HBCラジオで放送中

## 成道会

11月18日(土)成道会、今年最後のお寺参りでした。お釈迦様がお悟りをひらかれたことにちなむ法要です。



▶ 11月18日(土)は朝より荒天。雨にも関わらずお参りいただきありがとうございました!



▶ 法要にいらしたお坊さんに振舞ってかれていた金来軒さん最後のラーメン。



▶ 住職から坐禅を教わり、空手の練習をしました!



▶ お母さんたちの作ってくれたカレーをいただきました!

## お寺の風景

## 秋彼岸会

9月23日(土)秋のお彼岸会の法要が行われました! チェンバリズムの演奏が秋の午後を彩りましたよ!



▶ 江差町正覚院住職松村直俊老師よりお説教を頂きました。松村老師のお話はわかりやすく、笑いあり、元気をたくさんいただきました!



▶ 本堂でチェンバロやチェロ、ヴァイオリンの美しい演奏。



▶ 秋彼岸会ではたくさんのご焼香をいただきました。



▶ 秋彼岸の中日にはペット供養合同慰霊祭が行われました。



▶ イチョウの葉っぱだ! お地藏さんの前を掃き掃除!



▶ 境内、裏庭と木の葉掃除にはホウキとブロワー。



▶ 雪の季節になりました。観音様もじっと寒さに耐えます。



▶ 庭先のバラもあたたかな春を夢見て眠ります。



▶ お寺でピラティスの様子! 冬の間も開催予定です!



老心

老心とは、いわば老婆心。お父さんやお母さんが我が子を思うように、慈しみを深くして相手に尽くす。そこには何の見返りもありません。人ばかりではなく、素材から調理器具に至るまで、どこにでもこの心は輝いています。

精進料理と言いますが、肉魚を使わない料理と思ってしまうですが、そればかりではありません。永平寺を開かれた道元禪師様は、食事の作り方やその頂き方にまで細かく私たちに教えてくれています。おそらく他の宗教でもここまでのものはないのではないのでしょうか。特に料理を作る側の心構えを示した著書に『典座教訓』があります。その中で、喜心・老心・大心をもってその役に当たりなさいと説いておられます。その心は料理ばかりではありません。日常生活の私たちにとって大切な生き方です。

喜心

喜心とは、喜びをもって相手のために何かする心です。どうしても、他人のためとなると、「してやっている」「やってやった」という気持ち、さらには見返りを求めてしまいます。しかし、その人がホッとする姿を見て、こちらも嬉しくなる。そういう心です。

お参りにご自宅にうかがいますと、玄関の履物を整えてくださる方がいます。気にして下さっているんだと嬉しくなります。あるお婆ちゃん、ふだん「足痛い、腰痛い、いいところ一つもない」と言いながらも、私が仏壇でお参りの準備をしている間に、ゆつくり玄関に向かい、履きやすいようにと履物の間を少しあけて私のものをそろえてくれます。ほめられたいかさういうのじゃなく。そうすることに喜びを感じているんだなど、履くたびに思います。

大心

寒さが増してまいりますと、仏間が一段と寒くなります。ふだんは居間と仏間とを仕切らずにある家も、冬になれば暖をとるために仏間を仕切り、お経の息が白くなることも。せめて座布団だけでも暖かく、とお参りに来る直前まであっためてくれる方がいます。孫や子にするかのような心遣いが足にじんわりと伝わってきます。



大心とは、山のようにどっしりと、海のように広々とした、かたよりのない心です。あれはいいけど、あれはダメ、自分一人だけの物差しで相手を測る私たちです。その物差しをいったん置いてみましょう。悩みのほとんどは、私だけの物差しのせいだと気づくはず。

車を運転していると、前の車遅いなあとイライラしながら車間距離を詰める車を見かけます。急いでいるのかもしれないが、それは急いでいる側の言い分。遅く走っている車にはそれなりの理由があるのだらうと、想像力を働かせることも大切です。高齢者なのか、赤ん坊を乗せているのか、割れ物を運んでいるのか。

お寺の庭から

清々しい思い。雲ひとつない青空のような、まっすぐな清々しさ。私の息子も五歳になり、娘はもうすぐ三歳と、また妻の両親も広島からお寺に来るからちようどい、七五三の写真を撮らうということになりました。

「そうだ、この記念の一日はあの人に撮ってもらいたいな」とふと思ひ、広徳寺のホームページを作るときに親しくなったカメラマンに連絡してみました。北海道を北へ南へ、ある時は帯広、ある時はニセコ、旭川と、時には津軽海峡さえ自在にまたぐ彼は、まさに縦横無尽。

「ちょうど十月十五日に東北から枝幸町に移動しますから、そのとき寄りますよ」忙しいにもかかわらず、気軽に返事してくれたのです。約束通り十五日にお寺に来てくれた彼は、一、二時間ほどで撮影してくれました。

「東北からの移動中、大変だったでしょ、いつ函館に着いたの」私が尋ねると、「実は今日札幌から来たんですよ、急



最近、英語の勉強をしにトラピスト修道院に通っています。修道士がくれた自家製パン。素朴で美味しい。



息子と娘の七五三の写真。一生の記念をいただきました。見返りを求めない。なかなかできないことです。

に仕事入っちゃって。で、これからすぐ札幌戻って枝幸町に向かいます」驚く私たちを背に、「本堂、お参りさせてもらいますね」と言ってお参りに丁寧な手を合わせ、さつと行ってしまった。用意していた謝礼も受け取らず。札幌から四時間運転して来て、何も受け取らずにまた今度は八時間運転していくのです。私じゃできない。でも何だろう、この清々しさは。これを布施というのかな。こういうことなのか。私じゃなかなかできないが、そういう風になりたいと思う。また、そういう人が側にいてくれてありがたいと思う。その後、また一ヶ月して彼は出上がった写真をフレームに入れ、やっぱり突然風のように本堂の玄関に現れた。粋な計らいと、見返りを求めない彼のその生き方に、胸が熱くなりました。

(広徳寺副住職 高橋正英)